

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100488
法人名	グループホームやすらぎ有限会社
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地	〒345-0025 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地6-2-7 (電話) 0480-33-1888

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月28日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 2人, 非常勤 12人, 常勤換算 4人	

(2) 建物概要

建物構造	木質パネル構造造り		
	2階建ての1階～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000～63,000 円	その他の経費(月額)	13,000円+実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 1,200円			

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2		0 名	
要介護3	4 名	要介護4		0 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 78 歳	最低 56 歳		最高 91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東埼玉病院、優心会クリニック、秋谷病院、山口歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、静かな住宅地に建つ2階建ての建物で、1ユニット定員9人という少人数の利用者が家族のように暮らせるようにという願いで、平成12年に建てられたグループホームである。家庭的な環境の提供にこだわりながら、実践に努めている。隣に併設されたデイサービスセンターとは一緒にイベントに参加しながら連携をとって交流を図っている。町内会に入り、地域活動にも参加して、地域に溶けこむよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価に対しては、管理者と介護支援専門員などの職員で改善に取り組んでいる。なお、結果については玄関の見やすいところに置き、家族や来客者が自由に閲覧できるようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、主に管理者と介護支援専門員が取り組み、職員全員による参加には至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に、町職員、地域包括支援センターの職員、民生委員、利用者、管理者、職員が参加して運営推進会議を開催している。会議で参加者から提案のあったことに対してはホームで話し合い、きちんと対応している。家族の参加が難しいことに対しても根気よく声かけを続けるなどの努力をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情窓口が明記しており、管理者、職員は、面会に来た家族とよく話し合い、家族が意見を言しやすいような雰囲気づくりを心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し、掃除や草取りをしたり、ゴミ当番を担っている。また、近所の人気が軽にやってきて利用者に折り紙を教えてくれたり、地域のボランティアグループがハーモニカの演奏をしに訪問するなど交流が行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年、地域との連携を強調した「家庭的な環境のもと、地域の理解を得て、地域の中に溶けこんでのびのびと安心して自立した共同生活をできるよう援助します」という新しい理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の壁面にさりげなく理念が掲示しており、職員は仕事をしながらそれを見て確認し、実践しようと取り組んでいる。また、管理者は新入職員に理念を伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	共有場所の草取りや掃除を職員が利用者と一緒にやっているほか、町内会にも加入してゴミ当番も担っている。また、ハーモニカの演奏にボランティアが訪問してくれたり、近所の人々が来て折り紙を教えてくれたりするなどの交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は玄関に掲示し、家族も閲覧できる。評価には管理者と限られた職員のみで取り組んでおり、全職員の参加はみられない。		管理者、職員全員が参加して、自己評価をはじめとした評価の一連の作業にかかわり改善に取り組まれることが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、民生委員、役場(介護保険課)や地域包括支援センター職員、管理者、利用者が参加している。出席者からの提案を取り入れて取り組みに活かすなど、サービスの向上を目指している。家族の参加が難しい状況だが、参加してもらえよう声かけなどの努力を続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場主催の会議には必ず参加しているほか、情報提供、相談などしばしば連絡を取り合い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の様子を報告している。健康状態に変化があった場合は、そのつど電話などで知らせている。家族への定期的な便りの送付や職員の異動の報告はされていない。		定期的に新聞や便りを送るなどして、利用者の日常の様子を家族に知らせることで、家族とのよりよいコミュニケーションを図られることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は重要事項説明書に明記してある。管理者は面会時などに家族の話をよく聞くように努力している。今のところ苦情はない。		面会に来られない家族の意見等を知るためにも、管理者だけでなく職員も一緒に対策を考えていくことが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の大きな異動はない。併設のデイサービスセンターへの異動はあるが、日頃から行き来しているため、利用者は顔馴染みとなっており影響はない。また、離職があっても、利用者は自然に受け入れており混乱はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で自主研修を行っている。研修に参加した職員は、習得したものを他の職員に伝えている。		多くの職員が偏りなく研修に参加できるように工夫した取り組みが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、定期的開催されるグループホーム協議会の会議に参加し、情報交換に努めている。		管理者だけでなく、職員も同業者との交流の機会を持ち、サービスの質の向上を目指されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族だけではなく本人にも来てもらい、部屋やホーム内を案内して他の利用者と一緒に過ごし、納得してから入居してもらっている。また、入居後慣れるまでは夜間の見守りを頻繁に行い、レクリエーションには無理強いせず自然に参加できるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者や職員は、一緒に散歩に行ったとき、利用者の話をよく聴くことに努め、共感しあえる関係を築いている。また、日常生活の中で本人の得意とすることで力を発揮してもらい、利用者に生き甲斐を持って生活してもらうようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の暮らしの中で自然に利用者の思いを汲み取ることに努め、また、家族からは面会の時に詳しく話を聴くことで本人の意向の把握に努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が本人や家族から話をよく聴き、担当者会議などで、管理者及び職員で意見交換し、介護支援専門員が介護計画書を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護支援専門員が中心となって、定期的に担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。面会時などを利用して家族の意向の把握をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族にかわって通院に付き添ったり、美容院や買い物の外出介助を行っている。また、隣にある同法人のデイサービスセンターの行事に参加したり、同センターの浴室を利用したりしながら交流している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については本人と家族の希望で決めている。現在は全員ホームの指定医を希望しており、月に2回の往診を受けている。透析の必要な利用者は専門病院の送迎のもと治療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては、入所時に「同意書」をもらうことで家族の意向を把握しているが、具体的なホームとしての体制はない。		管理者、職員、指定医など関係者全員で繰り返し話し合い体制作りを行うことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、言葉遣いなどの職員教育の徹底に努め、不用意な言動がないよう注意している。記録物は鍵のかかる場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の立場に立ち、ゆとりのある援助をしていきたいというホームの思いはあるが、入浴日や日課などが決まっており、現実には一人ひとりのペースに沿った対応が不十分である。		管理者と職員はよく話し合っ、利用者の希望を第一に、一人ひとりのペースにあった暮らしができるよう、工夫されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に献立は決めず、なるべく利用者の好きな料理を作ることを心がけている。職員と利用者が一緒に買い物に行き、下ごしらえや味付けなども利用者を手伝ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に2回、午後と決まっている。夏場の汗をかいた時や汚れた時には入浴が可能であり、併設のデイサービスセンターで入浴することができる。		利用者の希望にそって入浴を楽しんでもらえるように話し合い、検討されることを期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、お茶当番、洗濯物たたみ、縫い物など利用者の得意なことや好きなことを楽しみながら自然に行えるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、時々外食にも出かけている。また、希望があれば美容院へ付き添って行くこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。これまでの実践の中から、見守りで十分対応できるというホームの自信につながっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防署で決められた訓練などには、職員、利用者全員の参加により実施されている。地域の協力はまだ得られていない。		運営推進会議などを利用して地域の人々に働きかけ、災害時には地域の協力が得られるようにしておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事のバランスに注意して献立を考えている。また、月に1度体重測定を行っている。透析をしており水分制限のある利用者に対してはきちんと水分摂取量を把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の住宅なので、余分な物は置かないようにスッキリとした配置にしてある。壁には季節を感じられるように、利用者の手作りの「カレンダー」が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に物が溢れて乱雑にならないよう、また、持ち物の整理がしやすいように工夫、配慮がされている。馴染みの物を持ち込む利用者は少ないが、希望があれば持ち込めるようになっている。		